

「地方創生カレッジ 高松 商店街活性化編」 ワークショップ等の成果のポイント

1. 地域課題・テーマ

「地域の商店街活性化についてのICT活用」

2. 現状と問題点

地域商店街が抱える問題点は、「集客力の弱さ」「魅力・話題性の不足」「商圈人口の減少」である。
また、ICT の活用や同分野との連携ができていない店舗数は少なく、「情報発信力の弱さ」も問題点として挙げられる。

3. 目指すべき方向性・将来像と実現に向けた具体的施策

(1) 将来像

- ①地元企業がICT技術を取得し、地域と連携させ活用することで街を変えていく。
- ②開発したシステムを用い、地域の再活性化を図る。

(2) 具体的施策

- ①地域商店街利用率向上を狙い、若年層から高齢層まで、各層に対応した技術の開発および同活用促進策の策定。
- ②デジタル化に不慣れな高齢経営者であっても活用可能な、店舗での生産性アップを目指す技術の開発・啓蒙。
- ③複数地域でのキャッシュレス化共同推進による「行きたい地域」から「住みたい地域」への転換。

「地方創生カレッジ 高松 商店街活性化編」 ワークショップ等の成果のポイント

4. 今回の講義やディスカッションを通じて得た気づき

(1) Zoomでのオンライン開催による、全国規模の参加者

企画段階では、香川県高松市で講座を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策の視点からZoomを用いた開催となったことで参加者の対象が全国へと拡大した。結果的に、当初のテーマである「高松市商店街の活性化」がより普遍的な「地域商店街の活性化」へと置き換わり、全国からの参加者がそれぞれに何らかの関わりを持つ商店街の課題解決を想定しながら講座に参加することができた。これにより各講演中および終了後の質疑応答、ブレイクアウトルームなどでの意見交換などもより広範囲で活発なものとなった。

(2) ブレイクアウトルームによる少人数でのやりとり

各ルーム内での意見交換からも、商店街活性化に関する問題意識が全国的なものであり、本講座テーマへの旺盛な好奇心が存在することが明らかになった。ブレイクアウトルームという仕組み導入に関しては参加者からの評価も高く、今後の事業実施に当たってはリアル講演会においても、小グループ討議だけでなく今回のブレイクアウトルームに相当するワールド・カフェ方式を取り入れるなどにより、意見交換やアイデアの多様性が生まれる可能性が高いと考えられる。

「地方創生カレッジ事業」という場の設定が、今回の事業テーマに関して個々の参加者に内在する問題意識やその解決につながる興味の具現化へと作用したことは明らかであり、上記の成果へとつながったと考えられる。また、事前には多少の懸念をもたれたZoomというオンラインシステムの利用に関しても、参加者に対する講演内容の周知や質疑応答に関しては何ら問題なく、むしろ講師を含めた参加者間の意見交換や相互交流といった面ではリアル講演会以上の成果をもたらすことにつながった。特に双方向性を十分に担保できたことは大きな成果と考えられ、今後とも地方創生に有効な仕組みや情報、実例を拡散するために大変有効な仕組みであるという結果が得られた。

(3) 講座終了後、参加者と講師たちの意見交換

二日目の全プログラム終了後、参加者15名程度がZoomオンラインシステムに残り、講師の先生方に個別の質問が行われ、充実したやり取りが約30分間にわたって交わされた。

参加者である大学生からの「僕の大学では作ったものを地域に使ってもらうことがなく、評価されて終わりということばかりですが、八重樫先生の場合には、実用化に向けて、地域とつながっていると思います。これはどう仕事をもらっているのでしょうか」という質問に、講師の八重樫氏は「企画書だけではなく、動くものを作って持っていくことが大事だと思います。アイデアはみなさんいっぱい作って出すのですが、実際にプロトタイプを作ることはあまりしません。必要最低限のものを作って、自治体さんに持っていき驚いていただけたらOKで、そうすると自治体さんが予算をつけてくださる、という流れができます。考えるより、トライ(トライ&エラー)していただくことが大事だと思います。」と答えた。このように、実際に対面せずとも、積極的に質問や意見を述べる参加者は多い。他大学、地域での取り組みを知る機会となり、自分の住むエリアではどのようなことがされているのか、またどのような取り組みができるのかを参加者各自が持ち帰って検討する機会が生まれた。

「地方創生カレッジ in 高松 商店街活性化編」ワークショップ等の成果のポイント

5. 成果スキーム図

地方創生カレッジ in 高松 商店街活性化編

＜事例＞
システム導入による香川県善通寺市
での観光事業活性化
(地域特性を考慮した、大学と地域との連携)

＜事例＞
小豆島でのプレミアムポイント事業
による地域商店街活性化

＜事例＞
キャッシュレス化導入による地
域人口定着化促進

＜総論＞
ICTが内包する可能性紹介
(データ収集)(データ分析)
(データ活用)

・商店街再生へとつながる
地域とICT技術の連携・活用
・新たなシステムの開発による
地域の再活性化

・Zoomを通じた広範囲な受講者獲得による議論の広がり
・ブレイクアウトルームでの少人数間のフランクな意見交換
・講演終了後の活発なカジュアルコミュニケーション

→ ICT活用は身近なところからでも効果へとつながる
→ 必ずしも高度な専門性を必要とはしない
→ 商店街が抱える課題は全国に共通
→ 商圏の活性化へとつながるICTの潜在力 etc.

将来的な課題と気づき

・大学など第三者組織との連携の必要性
・商店街の持つ潜在資産の見直しと活用化
・商店街とICT間マッチングの重要性
・必要なのはトライ&エラーを恐れない積極性
・積極的な Zoom、ブレイクアウトルーム等の活用

ICT(ツール)+商店街(素材)→活性化と好循環の形成